

日々徒然

何気ない出来事に心を寄せて

忙しいからこそその趣味

豊頃町立大津小学校

教諭 金 隆 義



「多趣味だね」「忙しそうだね」と、よく人から言われる。本人は興味をもったことをやっているだけなのだが…。ドラマ、ギター、音楽鑑賞、読書、ドライブ、車中泊、演劇づくり、写真撮影…。住んでいる町の文化事業協会にも関わらせていただいている。

仕事以外にこうした活動をすることに「暇があつていいね」と嫌味を言う人もいる。残念ながら、かなり時間を割くための努力と、家族の理解・協力があることは間違いない。

しかし、これらの活動をすることによって、なんとか日々生きている。仕事のことから頭を切替え、趣味に没頭するからこそ、ストレスは軽減され、仕事のことも考えられる。

24時間教員だからといって、24時間学校に勤務しているわけではない。だからこそ、学校以外の場面での活動を大切にしていきたいのである。

また、様々な人々との出会いも多い。バンド仲間や演劇仲間は、仕事仲間とはまた違う視点をもっており、考え方を大きく広げてくれる大切な仲間である。たくさんさんのプロのミュージシャン、プロの演出家やプロの舞台監督らとも出会った。そのたくさんさんのプロの皆さんが自分の師匠となり、たくさんさんのことを教えてくれた。そしてそれらの全てが、教員という仕事を進める上でプラスになっている。

人と出会い、関わりをもち、生活していくことが社会。多種多様な社会と関わることは、仕事を進める上でマイナスになることはない。

そう実感しているからこそ、今夜もまた、多趣味の世界に没頭していくのである。

望月を見上げて

広尾町立広尾中学校

教諭 武内 周子



昨年、正採用の教員となって初めての異動を経験した。新しい町、新たに出会う人々…。異動は想像以上に大変だった。日々も季節も目まぐるしく過ぎていった。

子どもと新たに出会ったとき、対話を重ねて少しずつ関係を作るようにしている。話すネタは時事が多い。子どもの関心を引けずに、空振りに終わることも、ままある。

とある秋の日、「道長と同じ月を見上げよう」というトピックを見掛けた。なんでもかの有名な「藤原道長の望月の和歌」の月とほぼ同じ形の月が昇る、というのである。私は喜んで授業の冒頭にこの話を子どもに伝え、是非見ようと呼び掛けた。子どもはまばらに反応していた。ネタは空振ったかと思われた。当日はあいにくの曇り空で風が強く、肌寒かった。しかしながら、流れる雲間から白い月を見ることができた。おぼろ月といった風情でこれはこれで趣深い。想像より地上から遠く、小さな月だった。かの道長も千年前にこの月を見たのかと思うと不思議だった。

週が明け、子どもに道長の月を見たかと尋ねると、多くの見たという声が上がった。呼び掛けは届いていたのだ。

この小さな出来事がこの年一番の思い出となった。千年前の月と同じ形の月を、時を同じくしてこの地の子どもと見上げた。異動で赴任したから生まれた、小さな共同体験である。

教師をしていると各地を転々とする。どこにでも子どもがおり、どこにでも出会いがある。出会った地で、人生の一部が少しだけ交差する。時を共有する。そして限られた時間の中で、同じ風景を見る。教師という仕事には、そんな魅力もあるのだと感じている。